

情報通信審議会 情報通信技術分科会
小電力無線システム委員会コードレス電話作業班（第4回） 議事録（案）

- 1 日時
平成22年1月15日(金) 14:00~15:45
- 2 場所
中央合同庁舎第7号館西館 904共用会議室2
- 3 出席者（敬称略、順不同）
 主任：若尾（(社)電波産業会）
 構成員：遠藤（サイテルセミコンダクタージャパン(株)）、大槻（京セラ(株)）、
 大橋（ソフトバンクモバイル(株)）、荻野（インフィニオンテクノロジー
 ーズジャパン(株)）、酒井（NEC インフロンティア(株)（代理：石坂））、
 佐々木（パナソニック(株)）、佐藤（ユニデン(株)）、菅田（KDDI(株)）、
 杉山（(株)OKI ネットワークス）、瀬戸（(株)NTT ドコモ）中川（(財)
 テレコムエンジニアリングセンター（代理：小竹））、諸橋（イー・モ
 バイル(株)）、矢澤（富士通(株)）、安池（東日本電信電話(株)）、矢野
 （(株)ウィルコム）
 説明者：武久（パナソニックシステムネットワークス(株)）
 事務局：金子、江尻、小幡（移動通信課）

4 配付資料

| 資料番号 | 配付資料 | 提出元 |
|--------------|--|---------------------------------------|
| 資料2009-コ作4-1 | コードレス電話作業班議事録（第3回）（案） | 事務局 |
| 資料2009-コ作4-2 | 新しいデジタルコードレス電話の技術的条件の 検討<同一周波数帯を共用するための技術的条 件<PHS編 | 京セラ（株） |
| 資料2009-コ作4-3 | 新しいデジタルコードレス電話の共用条件の検 討<隣接周波数帯を使用するシステムとの干渉 検討> | パナソニック（株） パナソニックシステム ネットワークス（株） |

5 議事

(1) コードレス電話作業班議事録（第3回）（案）について

事務局から資料 2009-コ作 4-1 に基づき説明が行われ、意見がある場合は来年 1 月 22 日（金）まで事務局あて連絡すること、その後、総務省 HP に掲載することについて了承された。

(2) 周波数の共用検討について

ア 大槻構成員から資料2009-コ作4-2に基づき説明が行われ、次の質疑応答があった。

（矢澤 構成員）： 8ページに関して、現行方式のキャリアセンスと同様に受信側のスロットをみるということでしょうか。

- (大槻構成員)： そのとおり。
- (矢澤構成員)： 現行方式の69dBmに対して帯域が広がっている分だけ、現行方式よりも相手に与える影響は小さいのか。
- (大槻構成員)： 10mW/900kHzなので、現行方式に対して影響が少ないと考えている。
- (矢澤構成員)： 11ページに関して、制御チャネルは現行方式がある場合11チャネル、19チャネルしか使用しないのか。
- (大槻構成員)： 11チャネル、19チャネルを優先的に使用していきたいが、限定すると運用できなくなることも想定されるため、3チャネル、27チャネルも制御チャネルとしている。
- (矢澤構成員)： その場合、例えば3チャネルを制御チャネルに使用した際に現行方式が使用されていれば干渉回避動作がなされるのか。
- (大槻構成員)： 干渉回避動作することになる。
- (矢澤構成員)： 11 ページに関して、初期立ち上げ時&待受モニタ時とは「空き」状態との理解でよいか。
- (大槻構成員)： そのとおり。
- (杉山構成員)： 5 ページに関して、キャリア配置が上下で非対称なのは公衆PHSの制御チャネルが上側にくる可能性があるからか。
- (大槻構成員)： 公衆 PHS に加えて、現行方式の制御チャネルも考慮したものである。
- (杉山構成員)： 6 ページに関して、(3) (ウ) の記述が図と異なるので修正願いたい。
- (若尾主任)： DECT 方式と値やキャリアセンス等で異なる点はあるのか。
- (大槻構成員)： 値は帯域が違うので異なるが考え方はいっしょである。キャリアセンスは、DECT が現行方式の制御チャネルがある場合は使わない、としていたのが、sPHS は制御チャネルを共用して時間スロットで分割するというのを提案している。
- (若尾主任)： 前回も述べたが、資料の中で言葉の使い方が統一されていないので DECT とあわせて整理されたい。例えば7 ページの空中線電力は 1 チャネル当たりの平均電力を 10mW とするとあるが、この 1 チャネルというのが無線チャネルのことか、スロットのことかで大きく違ってくるので、誤解ないように整理されたい。

イ 説明者から資料2009-コ作4-3に基づき説明が行われ、次の質疑応答があった。

- (若尾主任)： 5 ページに関して、sPHS の場合は 1.5dB 悪化するとあるのはなぜか。
- (武久説明員)： sPHS の方がピーク送信電力が 1.5dB 大きいことによるもの。
- (若尾主任)： 10 ページに関して、公衆 PHS の不要発射強度があげられているのはなぜか。
- (武久説明員)： 過去の答申に記述した公衆 PHS の不要発射強度で干渉検討が行われたものがあり、新方式も同様の値とすることで共用可能とすることを説明したいものである。
- (矢野構成員)： 公衆 PHS も携帯電話と同様に干渉検討を願いたい。

- (武久説明員): コードレスから公衆 PHS 基地局との干渉検討を行う。
- (菅田構成員): 5 ページに関して、表現が分かりづらい箇所、説明が不足な箇所があるので修正願いたい。また、10 ページに関しても同様である。
- (若尾主任): 矢野構成員から発言があったように、3 ページの表とそれ以降の整合を取る形にし、検討の抜けが無いように修正願いたい。
- (諸橋構成員): 4 ページに関して、離隔距離の屋内 10m は過去の答申でオフィスを前提にしていたと思うが今回の検討でも適切なのか。
- (武久説明員): 今回の検討もオフィスが前提なので問題ないと考えている。
- (矢澤構成員): 前回の DECT のキャリアセンスの件の検討状況はどうか。
- (武久説明員): 本日は準備をしていない。
- (若尾主任): いずれ全体の条件をまとめる際に説明を願いたい。最終的には技術的条件毎にキャリアセンスの方法が変わるのか、共通の条件ができるのかまで議論して整理する必要がある。

ウ 本資料に関して意見等がある場合は事務局に連絡いただき、資料の修正又は次回作業班で検討していくこととした。

(3) その他

事務局から、次回作業班を平成22年1月29日(金)14時から(場所:中央合同庁舎第7号館西館 904共用会議室-2)、次々回作業班を平成22年2月15日(月)14時から(場所:未定)開催する旨の説明があった。